

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	英語学科	夜・通信	32	0	0	32	13	
	日本語日本文化学科	夜・通信	32		0	32	13	
	総合文芸学科	夜・通信	32		0	32	13	
人間科学部	心理学科	夜・通信	32	0	0	32	13	
	都市生活学科	夜・通信	26		6	32	13	
	食物栄養学科	夜・通信	32		0	32	13	
	ファッション・ハウジングデザイン学科	夜・通信	32		0	32	13	
	生活学科都市生活専攻	夜・通信	26		4	30	13	
	生活学科食物栄養専攻	夜・通信	30		0	30	13	
	子ども発達学科	夜・通信	32		0	32	13	
教育学部	教育学科	夜・通信	32	0	0	32	13	
(備考) ・人間科学部都市生活学科及び食物栄養学科は、2017年4月設置のため、1～3年生が在学。 ・教育学部教育学科は、2019年4月設置のため、1年生が在学。 ・人間科学部生活学科都市生活専攻及び食物栄養専攻は、2017年4月学生募集停止のため、4年生が在学。 ・文学部総合文芸学科及び人間科学部子ども発達学科は、2019年4月学生募集停止のため、2～4年生が在学。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- 「実務経験のある教員等による授業科目一覧」を大学ホームページに掲載し、公表している。→ <https://www.shoin.ac.jp/academics/pdf/jitsumu.pdf>
- 該当する授業科目の個々のシラバスにも記載し、大学ホームページ上で公開している。→ https://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2019syllabus_u/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

理事（役員）名簿を大学ホームページに掲載し、公表している。
→ https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/pdf/2019r_k.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	宗教法人 日本聖公会主教	2016年4月～ 2020年3月	理事長
非常勤	会社役員	2019年4月～ 2023年3月	学校法人の経営全般
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画（シラバス）を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの作成は、本学で実施する授業に係る単位の実質化や教育の高度な質保証の実現に向けて「シラバス作成の手引き」に基づき、項目ごとの注意点を踏まえて作成するように要請している。提出されたシラバスは、項目ごとに学科・教育センターを含む複数の人員でチェックを行い、学部長が最終チェックを行う体制にしている。学生にはガイダンスに先立って、前年度中の 3 月 20 日頃に公開し、履修科目の決定・登録準備を促している。</p> <p>成績評価および単位認定の方法及び基準はシラバスに明記し、公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページに掲載</p> <p>→ https://ksw.shoin.ac.jp/kyoumu/kyoumu-info/2019syllabus_u/</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の低下等については、3 回連続の欠席があった場合に、学生の他科目の出席状況等を含め教職員間で情報を提供しあい共有して早期の発見と支援につなげている。 ・単位認定に当たっては、シラバスに評価基準を明記し、期末試験のみによる評価を避け、授業のリアクションペーパー、小テスト、発表、レポートなどを加味して総合的に評価を行っている。 ・成績評価は 100 点法で行い、60 点以上を合格として単位を認定する。 ・同一の科目で担当者が複数いる場合は、全担当教員の統一した認識のもとに成績評価、単位認定を行うようにし、担当者間で大きな成績評価基準の差異が出ないようにしている。 ・卒業論文、卒業研究については、各学科において分量・様式等について基準を設ける他、論文（又は作品）提出後に学内に公開する発表会の実施、要旨集の作成等により、適正かつ公平な評価の実現を図っている。 	
3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学修の状況および成果を示す指標として 2014 年度入学生より GPA 制度（本学は原成績がそのまま GP に反映されるように科目の素点を変換して直接 GP を算出する functional Grade Point Average）を導入し、履修した各授業科目の成績に対して、GP（グレードポイント）を与え、これに基づき履修科目の成績の 1 単位当たりの平均値であ</p>	

る GPA を算出する。GPA を客観的な成績指標の 1 つとして、学期ごとにクラス担任、指導教員による就学指導に利用している。

学期ごとの修得単位が 10 単位未満、かつ累積 GPA が 1.0 未満の学生については、学修意欲の確認、履修計画の作成等、クラス担任による指導を行っている。

また、在学期間 3 年及び 4 年経過後に所定の修得単位、所定の GPA を満たしていない場合は退学勧告を含めた進路指導を行っている。例えば、4 年の在学期間終了時点で修得単位が 64 単位未満、かつ累積 GPA が 0.8 未満の者については退学を勧告する。

GPA による登録単位数 (CAP) の引上げおよび引下げについても、年度末の累積 GPA が 3.0 以上の場合は、翌年度の履修登録単位数の上限を 4 単位相当引き上げること、年度末の累積 GPA が 1.0 未満の場合は、翌年度の履修登録単位数の上限を 4 単位相当引き下げることができるように規定化している。

2018 年度末時点の累積 GPA データを基に大学全体、学部、学科ごとの成績分布状況を把握し、学生には松蔭ポータル上で公表し、教職員向けには学内サイト (学内専用) で公表している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・在学生には、GPA 算出の方法など例示した詳細な説明を『履修ガイド』に掲載し、年度始めのガイダンスで配布している。GPA 分布図は、在学生用ポータルサイトに掲載。 ・大学ホームページに以下の情報を掲載し公表している。 履修規程：https://www.shoin.ac.jp/academics/pdf/course_rules.pdf GPA 制度に関する規程：https://www.shoin.ac.jp/academics/pdf/GPA_rules.pdf 成績分布図：公開情報に掲載(学内 PC のみ閲覧可)。 https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html
----------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学位授与の方針を策定し、ホームページで公表する他、学生等には履修ガイド、学生便覧に記載することにより周知を図っている。学部学科の学位授与方針は、カリキュラムマップによりカリキュラムに反映し、また、授業科目の到達目標の設定の指標とすることにより、単位認定の基準となっている。

本学に 4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、124 単位以上を修得した学生について教授会で卒業を認定し、学位を授与する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>卒業の認定に関する方針等は、『学生便覧』所載の学則に記載しており、学生には、毎年度始めに冊子を配布している。また、大学ホームページには、pdf 版を掲載し公表している。</p> <p>→ https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/pdf/regulations2019.pdf</p>
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸松蔭女子学院大学
設置者名	学校法人 松蔭女子学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html
収支計算書又は 損益計算書	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html
財産目録	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html
事業報告書	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_report.html
監事による監査報告(書)	https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/financial_info.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 中期ビジョン 対象年度: 2019年度~2022年度)	
公表方法: 大学ホームページに掲載し公表している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/financial/pdf/mid-vision.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページに掲載し公表している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/check.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページに掲載し公表している。 https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/evaluation.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部 英語学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf) (概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献し得る知見と能力を持った人材の育成を目的とする。 英語を学ぶことによって柔軟な国際性を身につけ、個性豊かに創造性を発揮して、自分自身を高めるとともに、さまざまな形で社会に貢献する人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/e.html) (概要) 英語学科では、自らの卒業後の進路に関して明確なビジョンをもつ学生を育てることを目標とする。英語を学ぶことによって柔軟な国際性を身につけ、個性豊かに創造性を発揮して、自分自身を高めるとともに、さまざまな形で社会に貢献する人材を育成することを目標とする。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。 1. 知識・理解 (1) 英語圏の言語、文化、社会についての専門的な知識を身につけ、異文化を十分に理解できる。 (2) 自らの進路に合わせた専門分野において、英語とその周辺環境についてより深く考察し、分析する力を身につけている。 (3) 東アジア地域を含む、多様な文化と言語が理解できる。 2. 汎用的技能 (1) リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能の基礎的能力を身につけ、国際社会で通用する英語運用能力をもつ。 (2) 情報を的確に判断・理解し、適切に処理する技能を身につけている。 (3) 広い視野に基づいた冷静かつ客観的な判断力を背景として、高度なコミュニケーション能力を用いた、説得力のある情報発信ができる。 3. 態度・志向性 (1) 社会における自己の位置を確立できる能力をもつ。 (2) 大学生活を通じて、自らの個性と創造性を最大限に発揮できる場を考察し、それを卒業後の進路として実現する実行力を備えている。 (3) 世界のできごとに幅広い関心をもち視野を広める。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/e.html) (概要) 英語学科の教育は、学ぶ英語の性質の違いによって英語プロフェッショナル専修とグローバルコミュニケーション専修に分かれ、「Essential Study Skills」によって築かれた土台を基礎に、英語プロフェッショナル専修は Semester 留学、Research Seminar、卒業研究へと続き、グローバルコミュニケーション専修は、プロジェクト演習、卒業研究と続くといった形で、系統的に編成された専門教育科目によって行う。これらの教

<p>育課程編成・実施の方針は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次の「Essential Study Skills」により、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など、学びの土台となる基礎知識および学習技能を養成する。 2. 英語プロフェッショナル専修では、英語の運用能力を徹底的に高め、外資系企業、あるいは国際機関で働くことのできる人材を育成する。また、2年次の後期には、セメスター留学を必修とし、英語圏の大学で学ぶ。 3. グローバルコミュニケーション専修では、プロジェクト型学習を中心として、英語・中国語・韓国語を含む語学力と異文化に対する理解を深め、国内企業の海外部門での仕事をするのに十分な英語力と異文化間コミュニケーション力を育成する。 4. ネイティブ・スピーカー教員によるリスニング、スピーキング、ライティングの授業と、日本人教員によるリーディングおよび文法の授業によって、英語の4技能をバランスよく習得できるようにする。また、1、2年次の必修科目の多くは、習熟度別クラスにより、少人数編成とする。 5. 3年次の演習、4年次の卒業研究において、少人数できめ細かな指導を通じて、専門性を身につける。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/e.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>英語学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 母語および英語のコミュニケーションにおいて、情報を的確に理解・判断し、正確でかつ説得力のある形で発信できる基礎的な言語能力をもつこと。 2. 思考力・判断力・表現力 母語および英語、また自国の文化と英語圏の文化を学ぶことを通じて、人間の言語・文化・歴史の成り立ちを探究することに関心を持ち、そのための知識の習得、課題解決に意欲をもつこと。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 人間関係におけることばの力に関心を持ち、その力を駆使した他者との協働により社会に積極的に貢献していこうとする強い意欲をもつこと。
<p>学部等名 文学部 日本語日本文化学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献し得る知見と能力を持った人材の育成を目的とする。</p> <p>日本語・日本文化についての深く豊かな教養のうえに、現代日本社会における言語現象・文化現象を的確に分析する能力を身につけ、自らの考えを適切に表現し、主体的に発信できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/j.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>日本語日本文化学科は、明確な目的意識をもって積極的に学習研究に励もうとする学生を育てる。日本語および日本文化全般について、生涯にわたる教養と知識および</p>

キルを身につけ、様々なメディアを使って、自らの考えを適切に表現し、主体的に発信できる学生を育てることを目標とする。また、社会を動かす力をもつメディアについて学び、現代日本社会で展開する文化現象を的確に分析する能力と、コミュニケーション・デザインを通して現代社会の課題を解決する能力をもった学生の育成も目的とする。

そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。

1. 知識・理解

- (1) 地域語を含む現代日本語を歴史的・社会言語学的視点から学ぶとともに、第二言語教育などを通じて、多様な媒体によるコミュニケーションの諸相に触れることで、深い知識を身につけ、異文化・多文化の存在と価値を十分に理解している。
- (2) 日本文化の長い伝統と歴史の流れを学び、先人の残した古典文学、絵画・書跡、古典芸能などの文化遺産、ならびに近現代の小説、詩歌、演劇、映画、サブカルチャー、ジャーナリズム、広告などの諸相について、その文化的意味、現代的な意義を享受、理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけている。

2. 汎用的技能

- (1) 日本語、日本文化、および、芸術各方面の所産について、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力を身につけている。
- (2) 現代社会の多様な局面において、情報を的確に受容・判断・理解し、論理的な思考を展開する力とスキルを身につけている。
- (3) 広い視野に基づいた客観的な判断力を背景として、他者と協働し、問題を解決していく実践的スキルを修得している。

3. 態度・志向性

- (1) 多様な価値観の並存する社会において、国内外で自立した個人として、豊かな感受性をもって、生涯にわたって学び続けようとする姿勢をもつ。
- (2) 積極的かつ柔軟に行動することで、社会における自己の役割を見出し、現代社会の課題を解決する力をもつ。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/j.html>)

(概要)

日本語日本文化学科の教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 1年次の「基礎演習」により、大学での学びの土台となる基礎知識および学習スキルを身につけ、専門教育への基礎を固める。
2. 1年次の「日本語入門」「日本文学・文化入門」「メディア・文芸入門」により、日本語および日本文化全般についての学問的基礎を自らのものとし、2年次に選択する専門教育に備える。
3. 2年次の「プレゼンテーションの方法」「正しいことばづかい」により、日本語の運用能力を高め、高度なコミュニケーション能力を養成する。
4. 2年次以降に用意された選択科目により、応用力を高め、3年次の演習、4年次の卒業研究を中心とした科目によって、課題発見、課題解決の過程を通じた思考力、判断力、表現力の養成を図る。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/j.html>)

(概要)

日本語日本文化学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

<p>1. 知識・技能 情報を的確に理解・判断し、正確でかつ説得力のある形で発信できる基礎的な言語能力を、特に日本語についてもつこと。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 日本語・日本文化（文化・メディア・演劇）全般に対して関心があり、そのための知識の習得、課題解決に粘り強く取り組む意欲をもつこと。</p> <p>3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 人間関係におけることばの力、コミュニケーションに関心をもち、その力を駆使して社会に積極的に貢献していこうとする志をもつこと。</p>

<p>学部等名 文学部 総合文芸学科 2019年4月学生募集停止</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人文系の学問の教育によって、個人の健全な人格形成を促すとともに、卒業後は、自己実現から発展して、現代社会の課題に積極的に向き合い、その発展に貢献し得る知見と能力を持った人材の育成を目的とする。 文芸の世界の広がりをつとめながら、学んだことをさらに調べて考察し、自分のことばで表現することを通じて、ことばの力を中核とした幅広い知識と人間としての強さを身につけた人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/a.html)</p>
<p>(概要) 総合文芸学科では、文芸の成り立ちとその所産について学ぶ。文芸の世界の広がりをつとめながら、学習を探究へと進展させ、ことばの力を中核とした幅広い知識と主体的に問題を解決する能力を育成することを目標とする。そのために、卒業時までには次の能力と態度を養成した上で、学士の学位を授与する方針である。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 小説、詩歌、絵画、音楽、演劇、映画、ジャーナリズム、広告などの多様な文芸の諸形態を学び、それらがどのように相互に影響し合いながら発展してきたのかを認識し理解することができる。</p> <p>(2) 現代社会に生きる自分自身にとって、文芸的営為の所産がどのような意味と価値をもつのかを認識し理解することができる。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>(1) 多様な文芸のテキストを読み、また芸術作品などの文化的所産を比較文化的に感得し解釈して、自身の学びと探究のプロセスおよびその成果を的確に表現することができる。</p> <p>(2) 幅広い文芸的教養に基づいて、日常生活において遭遇する問題をことばによって対象化し、その解決の試みを適切な表現によって発信し、他者と協働することができる。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>(1) 文芸の学びによって身につけた知識とことばの力を自己啓発の基盤とし、生涯にわたって学び続けようとする姿勢をもつ。</p> <p>(2) 人間文化の多元性・多層性について理解し共感する心をもち、ものごとの本質を見極める洞察力と冷静かつ客観的な判断力を備えた一人の人間として、社会における自己の役割を積極的に見出して社会に貢献しようとする。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/a.html>)

(概要)
総合文芸学科の教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 1年次には「文芸の基礎」において文芸の学びの対象と方法を概観し、「基礎演習」「文章表現」によって専門学習における調査・報告・発表のための文章作成の技能を養い、「基礎講読」「世界の文芸Ⅰ」によって、さまざまなジャンルの文芸テキストに向き合い、基礎的読解力を培う。
2. 2年次には「世界の文芸Ⅱ」、「文芸講読」諸科目、「比較文化」諸科目によって多様な文芸ジャンル・関係諸領域の所産に触れて見識を養い、批判的読解力や歴史的解釈力を高める。また文芸の実際的創作的側面の知識と経験を得るために「文芸との触れ合い」諸科目を配置する。これらの学びによって、単なる情報伝達の域を超えた、文芸の創造的な働き、産出力を認識させ、一つの文芸テキスト・文芸作品等が表現する豊かな意味の繋がりと広がり眼を開かせる。
3. 3、4年次では総合文芸コースとメディア・広報コースいずれかのゼミに所属して、「文芸演習A」「文芸演習B」「卒業研究」「文芸特殊講義」諸科目を履修し、各自のテーマに沿った専門性を深めるとともに、発表・討論・共同調査などの作業を通じてコミュニケーション能力を深める。
4. 「文芸演習A」「文芸演習B」「卒業研究」を発展科目としてそれぞれに指定されたコア科目を合わせてメジャーとし、一つのメジャーを必修化することによって、選択する分野・テーマへの系統的な学修を促す。また1年次から4年次まで各段階の学びに応じた選択科目を配置して、これを補強する。
5. 学科専門科目とは別に学芸員養成課程科目、司書養成課程科目を配置し、また文学部他学科の科目ないしコア科目群の履修を可能にして、系統的な専門学習の幅を拡げ、興味・関心の拡がりや深化に対応する。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/a.html>)

(概要)
総合文芸学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

1. 知識・技能
多様な文芸の学びに意欲的に取り組み、読解力と表現力を高めるために必要な基礎的な国語力と知識をもつこと。
2. 思考力・判断力・表現力
文芸という人間精神の活動に触発されて、他者の多様なものの見方や感じ方を理解し、秩序立った思考と判断にもとづいた自分自身の見方を形成し表現することへの意欲もしくは興味・関心をもつこと。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
母語や外国語による他者との相互理解や協働的探究への意欲をもち、そのために自分の言語能力・表現力を拡げ高めることに自覚的に取り組む姿勢をもつこと。

学部等名 人間科学部 心理学科

教育研究上の目的
(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)

(概要)
本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生

きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。
人の心と行動を調査・分析する実証的な研究方法に加え、さまざまな実習等を通して心の問題解決に必要な知識と技術を身につけ、問題解決の方策を社会に提案できる人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/p.html>)

(概要)

心理学科では、人の心と行動を調査・分析する実証的な研究方法に加え、さまざまな実習等を通して心の問題解決に必要な知識と技術を身につけ、問題解決の方策を社会に提案できる人材の育成を目標としている。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。

1. 知識・理解
 - (1) 心の働きや心の健康に関する幅広い知識を身につけている。
 - (2) 人の行動や心の状態を把握するための適切な方法について理解している。
2. 汎用的技能
 - (1) 人の行動や心の状態を、適切な方法で把握し、分析することができる。
 - (2) 心に関する現象について、適切な言葉を用いて表現・発信ができる。
 - (3) カウンセリング技法やアセスメント技法など対人援助に関わる技法を身につけ、対人コミュニケーションにおいて応用することができる。
3. 態度・志向性
 - (1) 自分自身に向き合い、深い自己理解を得ようとする。
 - (2) 他者に関心をもち、その心理状態について十分な配慮をしながら、深く理解しようとする。
 - (3) 心の問題の解決や改善のための方策を提案し、社会に貢献しようとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/p.html>)

(概要)

心理学科では、「基礎演習」によって習得された基盤の上に、4つの科目群と少人数の演習科目群「ゼミナール(ゼミ)」を、学年進行に合わせながら学べるようにカリキュラムを編成している。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 1年次ゼミである「基礎演習」により、資料の探し方やレポートの書き方といった大学での学習技能、心理学調査の基本を習得する。
2. 「心理学の基礎理論」科目群では、多彩な心理学各分野の基礎を身につける。
3. 「心理現象の把握」科目群では、心理学における実証的な研究方法を実習も交えながら習得する。
4. 「対人援助の心理学」科目群では、自己や他者の心の健康の維持・向上のための知識や方法を学ぶ。
5. 「現代社会と心理学」科目群では、現代社会における日常的な人間関係と現代社会にあらわれる臨床心理学・社会心理学的な問題を学ぶ。
6. 4年間の学びの集大成である卒業論文の作成に向けて、3年次ゼミの「心理学研究法」で研究テーマへの関心と学習技法を深め、4年次ゼミの「卒業研究」において卒業論文としてまとめる。
7. 選択科目として、卒業後の進路に関する科目である「心理の仕事」や、大学院進学に必要な語学力と専門的知識育成のための「英語で読む心理学」「心理学上級演習」を通して、進路選択や大学院進学に必要な知識と能力を身につける。
8. 公認心理師受験資格の取得を目指す者は、上記2～6、および選択科目に配置さ

<p>れている公認心理師関連科目の履修を通して、公認心理師となるために必要な基礎的な知識と態度を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/p.html)</p>
<p>(概要) 心理学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 自己や他者の心の働き、心の問題の解決に関心をもち、主体的に学んでいくための基礎的な知識をもつこと。 2. 思考力・判断力・表現力 自ら課題を見出し、柔軟な思考力・判断力をもってその解決を目指し、自らの考えを他者に伝える表現力を身につけようとする意欲をもつこと。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 他者と積極的に関わり、協働して社会に貢献しようとする高い目的意識をもつこと。

<p>学部等名 人間科学部 都市生活学科 2017年4月設置</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。 都市化された社会における生活をさまざまな視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/u.html)</p>
<p>(概要) 都市生活学科では、都市化された社会における生活を様々な領域の視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案できる人材を養成する。具体的には、下記の能力を育成した上で学士（人間科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 生活に関する基本的な知識を持ち、それらを総合して地域生活の質の向上という広い視野に立ち、生活のあり方を提案することができる。 2. 汎用的技能 生活を取り巻く環境を実験や社会調査の手法で、情報ツールを用いて学際的に分析し、地域社会が直面している課題の解決方策を社会へ提案できる。 3. 態度・志向性 キリスト教の愛の精神に基づき他者の生活支援のため実践的な活動をし、持続可能な社会を実現する専門家として社会や家族の幸せのために貢献する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/u.html)</p>
<p>(概要) 本学科では、都市化に伴う生活の構造、人間の生活行動について概観する生活の基礎</p>

<p>的知識の習得のため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が、生活に関する広い意識を持ち、都市における問題を気づくことができるように、学科基礎科目を必修とし1年次から「生活学概論」、「生活の科学基礎Ⅰ・Ⅱ」、「生活行動論」、「都市生活論」などを学び基礎的知識を身につけるとともに、問題解決に必要な専門的スキルを「基礎演習」や2年次の「都市生活プロジェクト演習A・B」で修得し、3年次の演習や4年次の卒業研究で課題解決に向けて実践できる力を養う。 2. 共通選択科目では、2年次を中心に学生が地域の課題解決に必要なさらに広範な学際的な知識を身につけ、自らの考えを他者に伝え、地域の企業NPO、行政と連携しながら組織的に問題を解決する力を養う。都市生活専修では、専修基礎科目において社会調査や実験など生活を科学的に分析できる力を身につけ、問題を解決する力を身につける。食ビジネス専修では、実験などを通じた実践的な学習やインターンシップなどの課題解決学習(P.B.L)を通じて、企業や地域が提供する課題に取り組み、プロジェクトマネジメント、チームワーク、コミュニケーション能力を習得する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/u.html)</p>
<p>(概要) 都市生活学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 市民性を養うため幅広い教養と批判的に考える基礎的な知識・スキルを身につけていること。 2. 思考力・判断力・表現力 生活を科学的にとらえ、時代や社会の変化に伴い変化する地域生活を女性の視点でとらえられること。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 キリスト教の愛の精神に理解を示し、他者と協働しつつ質の高い生活を実践できること。
<p>学部等名 人間科学部 食物栄養学科 2017年4月設置</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。 情報化の進んだ社会における人間の行動に関する知識をもとに、傷病者に対する療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理等を行う管理栄養士の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/n.html)</p>
<p>(概要) 食物栄養学科では、情報化の進んだ社会における人間の行動に関する知識をもとに、傷病者に対する療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理等を行う管理栄養士を養成する。そのために、</p>

卒業時までには次の能力を養成した上で学士（人間科学）の学位を授与する方針である。

1. 知識・理解
社会システムや人間の生活行動の幅広い理解のもとに、健康、栄養状態、食行動、食品、食環境などに関する情報を収集・分析し、これらを総合的に評価・判定できる。
2. 汎用的技能
対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価ができ、なおかつ栄養、安全、経済、嗜好に配慮する総合的な給食マネジメントの能力を身につけている。管理栄養士に求められるプレゼンテーションおよびコミュニケーションの能力を身につけている。
3. 態度・志向性
医療・福祉・保健の場における管理栄養士の役割を理解し、個々の状態に応じた栄養教育を行うことによって、社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/n.html>）

（概要）

食物栄養学科では、管理栄養士学校指定規則に基づき、次の9領域を柱とする科目を準備し、学年進行に合わせて、各領域の知識や技能を講義・実験・実習により修得し、臨地実習により実践力を身につけられるようにカリキュラムを編成している。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 「社会・環境と健康」では、人間の食生活や健康が社会や環境に大きく関わっていることを学び、広い視野で健康をとらえることのできる能力を養う。
2. 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」では、人体の構造や機能を系統的に理解すると同時に、主要疾患の成因、病態、診断、治療などを理解する。
3. 「食べ物と健康」では、食品の各種成分を理解する。また、食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対しての栄養面や安全面への影響や評価を理解する。
4. 「基礎栄養学」では、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。
5. 「応用栄養学」では、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に応じた栄養管理の考え方を理解する。
6. 「栄養教育論」では、健康、栄養状態、食行動、食環境等の判定・評価に基づき、栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養う。
7. 「臨床栄養学」では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。
8. 「公衆栄養学」では、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く情報を収集・分析し、公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する能力を養う。
9. 「給食経営管理論」では、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済全般のマネジメントを行う能力を養う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/n.html>）

（概要）

食物栄養学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

1. 知識・技能
食品学、栄養学、医学、生理学などの自然科学系科目を学ぶために、化学や生物の

<p>基礎的な知識をもつこと。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 大学での学びにおいて、管理栄養士に求められる技能としてプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を身につける。これらの能力の基礎となる、論理的思考力、理解力を持つこと。</p> <p>3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 食べ物や食行動に関心を持ち、将来個人や集団（地域）の健康の維持・増進を食生活から支えることに意欲をもつこと。</p>

<p>学部等名 人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。 ライフスタイルに関するデザインの専門知識・技術と同時に、人間科学的・生活学的な視点と深い教養に根差し、調和のとれた生活や地域貢献に資する具体的で創造的なデザインを提案できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/fh.html)</p>
<p>(概要) ファッション・ハウジングデザイン学科では、身体とそれを取り巻く衣服や身近な空間について、デザインや生活文化の視点から教育・研究することにより、質の高いライフスタイルを創造・提案できる人材を養成する。具体的には、下記の能力を育成した上で学士（人間科学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ファッションとハウジングデザインの背景としての生活文化を理解している。 2) 身近な生活におけるデザインの役割（造形性、機能性、審美性、経済性、関係性）に関する幅広い知識を身につけている。 <p>2. 汎用的技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) からだを取り巻く衣・住空間のデザイン事例について情報収集し、特徴やイメージを読み取り、分析することができる。 2) ファッションとハウジングデザインを専門の言葉で表現し、コミュニケーション能力をもつ。 3) 図、画像、文章、立体作品等を用いて、独自の発想や感性に基づく具体的なデザインを表現することができる。 <p>3. 態度・志向性 ユーザー、生活者である女性として、地域に根差した生活文化の形成、新たなデザインやライフスタイル提案により、社会に貢献できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/fh.html)</p>
<p>(概要) ファッション・ハウジングデザイン学科のカリキュラムは、「プロデュース」、「デザイン」や「ライフ」に関する基礎的な科目と「ゼミ総合」科目群、さらに「ファッショ</p>

ンと自己形成」のⅠ群と「プロデュース」のⅡ群、および学年進行とともにそれぞれの分野の専門性を高める「専門展開」科目群から構成されている。これらの教育課程編成・実践の方針は次のとおりである。

1. 「基礎演習」により、ファッションとライフスタイルを題材にしてコミュニケーションリテラシーの基礎を身につける。
2. 「ファッションと自己形成」のⅠ群では、衣服を着用する人間の身体と心に重点をおき、ファッションを通して女性として美しく豊かに生きるための知識と方法を学ぶ。
3. 「プロデュース」のⅡ群では、ファッションを媒体として社会における要求に対応できるプロデュース能力を身につける。
4. 「ライフ」分野では、ライフスタイルや地域文化を視野に入れ、おしゃれなファッション生活を提案できる知識と技術を習得する。
5. 「ウェルネス」分野では、内面の感性としての美容と健康における知識や技術を身につける。
6. 「デザイン」分野では、被服の構成、素材、管理までの一連の知識やファッションデザイン技能を学ぶ。
7. 「インテリア」分野では、インテリアの歴史、コーディネート、デザインに関する知識や技術を習得する。
8. 4年間の集大成である卒業研究に向けて、3年次の「デザイン特別演習」で先行研究を参考に研究テーマを決め、4年次の「卒業研究」には、卒業論文または卒業制作のどちらかの形式で取り組む。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/fh.html>)

(概要)

ファッション・ハウジングデザイン学科へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

1. 知識・技能
日常生活のなかで、身近なファッションや住まいあるいはそれらのデザインに関して興味をもち、その創作技法を修得するための基礎的な知識をもつこと。
2. 思考力・判断力・表現力
よりよい生活の在り方に関して、広い視野から柔軟な思考や判断ができ、豊かな想像力と表現力を磨くことに意欲をもつこと。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
ファッションや住まい・インテリアの学びから他者と協働し、社会の発展のために積極的に関与することができる。

学部等名 人間科学部 生活学科都市生活専攻 2017年4月学生募集停止

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)

(概要)

本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。

都市化された社会における生活をさまざまな視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案できる人材の育成を目的とする。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/lu.html)</p> <p>(概要) 生活学科都市生活専攻では、都市化された社会における生活をさまざまな視点から研究することにより、人間らしい質の高い生活を創造・提案できる人材を養成する。具体的には、下記の能力を育成した上で学士（人間科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 カリキュラム・ポリシーに記載する「生活科学」「生活行動」「社会生活」「生活システム」という4つの視点から、現実社会を概括的に理解できる。 2. 汎用的技能 科学的な実験手法や質問紙などによる調査手法を用い、現実社会が直面している課題を的確に理解し、これらの課題への解決方策を社会に提案できる。 3. 態度・志向性 社会の中で自立しながらも他者と調和できる女性として、自分自身の信念に基づき、社会や家族の幸せのために貢献しようとする。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/lu.html)</p> <p>(概要) 都市生活専攻では、社会の都市化による生活の変化や生活の構造、人間の生活行動について概観する生活学科の基礎的知識の習得に加え、以下の4つの視点から生活を見つめ、それぞれの領域の現実問題に対応できる力を養成するために、実験・実習・演習科目を重視した教育をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活行動領域：生活を構成するモノと人との関係の理解 2. 生活システム領域：社会生活の基盤となる各種システムの理解 3. 社会生活領域：人と人との関係および社会生活についての理解 4. 生活科学領域：生活を構成する要素の理解
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/lu.html)</p> <p>(概要) 都市生活専攻へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 市民性を養うため幅広い教養と批判的に考える基礎的な知識・技能を身につけていること。 2. 思考力・判断力・表現力 生活を科学的にとらえ、時代や社会の変化に伴い変化する地域生活を女性の視点でとらえられること。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 キリスト教の愛の精神に理解を示し、他者と協働しつつ質の高い生活を実践できること。

<p>学部等名 人間科学部 生活学科食物栄養専攻 2017年4月学生募集停止</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p> <p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を養成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生</p>
--

きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。
情報化の進んだ社会における人間の行動に関する知識をもとに、療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理等を行う管理栄養士の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/ln.html>)

(概要)

生活学科食物栄養専攻では、情報化の進んだ社会における人間の行動に関する知識をもとに、傷病者に対する療養のための栄養指導、健康保持増進のための栄養カウンセリング、特定多数の人々に対応する給食経営管理等を行う「管理栄養士」を養成する。具体的には、下記の能力を育成した上で学士（人間科学）の学位を授与する。

1. 知識・理解
生活を取り巻く社会システムや人間の生活行動の幅広い理解のもとに、健康・栄養状態・食行動・食品・食環境に関する情報を収集・分析し、これらを総合的に評価・判定できる。
2. 汎用的技能
対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価ができ、なおかつ栄養・安全・経済・嗜好に配慮する総合的な給食マネジメントの能力を身につけている。管理栄養士に求められるプレゼンテーションおよびコミュニケーションの能力を身につけている。
3. 態度・志向性
医療・福祉・保健の場における管理栄養士の役割を理解し、個々の状態に応じた栄養教育を行いながら、社会を向上させようとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/ln.html>)

(概要)

食物栄養専攻では、管理栄養士学校指定規則に基づき、以下の9領域を柱とする科目を準備し、学年の進行に合わせて、各領域の知識や技能を講義・実験・実習により修得し、臨地実習により実践力を身につけられるようにカリキュラムを編成する。

1. 「社会・環境と健康」では、人間の食生活や健康が社会や環境と大きく関わっていることを学び、広い視野で健康をとらえることのできる目を養う。
2. 「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」では、人体の構造や機能を系統的に理解すると同時に、主要疾患の成因・病態・診断・治療などを理解する。
3. 「食べ物と健康」では、食品の各種成分を理解し、人体に対する栄養面や安全面等への影響とその評価について理解する。
4. 「基礎栄養学」では、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。
5. 「応用栄養学」では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。
6. 「栄養教育論」では、健康・栄養状態・食行動・食環境等の判定・評価に基づき、栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養う。
7. 「臨床栄養学」では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。
8. 「公衆栄養学」では、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。

9. 「給食経営管理論」では、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済全般のマネジメントを行う能力を養う。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/ln.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>食物栄養専攻へ入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 食品学、栄養学、医学、生理学などの自然科学系科目を学ぶために、化学や生物の基礎的な知識をもつこと。 2. 汎用的技能 管理栄養士に求められるコミュニケーション能力の基礎となる論理的思考力、理解力をもつこと。 3. 態度・志向性 食べ物や食行動に関心を持ち、将来個人や集団（地域）の健康の維持・増進を食生活から支えることに意欲をもつこと。

<p>学部等名 人間科学部 子ども発達学科 2019年4月学生募集停止</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と人間諸科学を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心を持って社会へ貢献することができる人材を育成すること、および社会科学、自然科学という複合的な視点から、「人間とは何か」、「よりよく生きるためにはどうすべきか」を探求し、よりよい方策を提案し、「健康で人間らしく質の高い生活」の実現と継承に資する人材の育成を目的とする。</p> <p>人間理解についての心理学・教育学等の専門的知識と具体的な技能に加えて、教育現場で応用可能な知識・技能や子育て支援のスキルを習得し、学校・幼児教育・保育・家庭・地域における教育活動ないし子育てを推進できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/k.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>子ども発達学科では、人間理解についての心理学、教育学等の専門的知識と具体的な技能に加えて、教育現場で応用可能な知識・技能を習得し、学校教育・幼児教育・保育および家庭・地域における教育活動ないし子育てを支援できる人材の育成を目標とする。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心理学・教育学・各教科の専門的知識と具体的な技法を習得するとともに、それらを習得する必要性について理解している。 (2) 学校教育・幼児教育・保育および家庭・地域における教育活動や子育ての現状と課題に関する包括的で客観的な認識をもっている。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育現場の多様な実態に応じて、教育活動や保育活動を設計・実施・評価・改善する能力を身につけている。 (2) さまざまな問題状況において臨機応変に対応し、子どもや保護者と円滑にコミュニケーションを行う能力を身につけている。

3. 態度・志向性
(1) 学校教育・幼児教育・保育および家庭・地域における教育活動や子育ての現状と課題に積極的に対応しながら、教育や保育の専門家としての責任感を持ち、生涯にわたって実践的に学び続ける姿勢をもつ。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/k.html>)

(概要)
子ども発達学科では、幼稚園教諭、小学校教諭の免許状が取得できる教員養成課程と保育士資格が取得できる指定保育士養成施設を置き、教育・保育の専門性と実践力の育成が可能なカリキュラムを編成している。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 1年次の「基礎演習」により、大学における学びの基本を身につけるとともに、専門性を支える学びの土台となる基礎知識・学習技能を養成する。また、後期の「子ども発達実習」で幼小教育と保育の現場を知り、2年次からのコース分けに備えて、一人一人の得意分野を考える。
2. 初等教育コースでは、小学校教育課程を中心に教育および教科・専門に関する専門的知識・技能の習得を図る。3、4年次では教育実習や介護等体験などの現場経験を通じて、家庭・地域における教育活動や子育ての現状を理解するとともに実践力を身につける。
3. 幼児教育コースでは、幼稚園教育課程、保育士養成課程の教育・保育の内容・専門に関する専門的知識・技能を習得する。2、3年次には幼稚園教育実習、保育所実習、施設実習を通じて、幼児教育・保育および家庭・地域における教育活動や子育ての現状を理解するとともに、実践力を身につける。
4. 実習や地域における調査などを通じ実践力を育成し、多様な講義や演習により省察能力や課題解決能力を培う。これらの能力は学外実習および3年次の「教育発達演習A・B」、4年次の「卒業研究」「教職実践演習」などにおいて専門性と実践力が強化される。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/k.html>)

(概要)
子ども発達学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

1. 知識・技能
子どもの成長発達だけでなく保護者や地域へ関心を持ち、子どもおよび教育・保育に関わる問題について、専門的な知識・技能を求めて自ら学び考えようとする姿勢をもつこと。
2. 思考力・判断力・表現力
教育者・保育者を目指すに当たり、人への愛と教育・保育への強い情熱をもち、大学での学びや保育・教育実習における課題解決に向けて柔軟な思考と豊かな想像力と表現力をもつこと。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
基礎学力とコミュニケーション能力を生かして人と協働し、積極的に社会に貢献しようとする志をもつこと。

<p>学部等名 教育学部 教育学科 2019年4月設置</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/pdf/study_purpose_u.pdf)</p>
<p>(概要) 本学の建学の精神であるキリスト教の愛の精神と教育・保育に関連する学問の教育によって、教育に対する使命感を育成し、学校教育における高度な専門的知識や社会における子育て支援のスキルを習得させ、学校で教員として活躍できる人材、家庭や地域社会や教育関連企業で教育活動及び子育て支援を推進できる人材の育成を目的とする。 教育学・保育学関係の知識と実践的スキルを習得し、幼児教育から中等教育までの発達の段階や特性を踏まえ、多様な教育的ニーズに応じ、そのニーズにふさわしい指導方法や学習スタイルを選択し、たえず工夫して実践できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/t.html)</p>
<p>(概要) 教育学科では、本学キリスト教の「愛の精神」に基づき、他者への思いやりの心をもって社会に貢献する人材の育成、また、リベラルアーツを基本とした教養豊かな人材の育成を目標とする。そのために、卒業時までには次の能力を養成した上で学士の学位を授与する方針である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 教育学の理論や実践を踏まえながら、学校、地域、家庭の教育課題を題材にし、生きて働く知識を身につける。地域社会、共生社会、グローバル化などの広い視点から教育問題を理解し分析できる。 2. 汎用的技能 教育と学びの現場の実態を正確に把握し、主体的で対話的な学びの視点から学習過程を改善することができる。外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、具体的で身近な話題についての理解や表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を持つ。 3. 態度・志向性 社会の様々な問題を教育の現場に立脚した視点から分析し、解決策を提案できる。自ら学び続ける中で省察し、教育の専門家として責任感を持ち、教育活動に積極的に関与する姿勢を身につける。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/t.html)</p>
<p>(概要) 教育学科では、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭の免許状が取得できる教職課程と保育士資格が取得できる指定保育士養成施設を置き、校種の垣根を越え幼児教育から中等教育までの発達段階を見通し、グローバル化時代に対応し、一人一人の教育ニーズに応えることができる人材を育成する目的のもとにカリキュラムを編成している。これらの教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育科目においては、教育学の専門領域について高度専門職業人として、生涯を通じて学び続けるための基礎的な思考や方法論を身につける。基礎演習等の少人数で実施する科目では、教員・学生相互間の議論を活発化し、課題を発見し、解決に向けて協働的に学ぶ。 2. 教職コア科目においては、校種を越えて学ぶ必要がある教職科目を必修科目として履修し、学生が取得する免許・資格に応じて必要な科目を選択する。

3. 教職実践科目においては、取得する免許・資格に応じた教育実習や保育実習及びその指導に関わる科目を履修する。また、こうした実習に向けて、学校教育現場と関わるための学外体験活動を通して、学習段階に応じて、履修科目と教育現場での実践の効果的な往還ができる。
4. 教職発展科目においては、教育実習や保育実習を終えた後、自らの課題に応じて、より高度な教育実践力を育成する。
5. 専修の専門科目として、幼児教育科目（保育教育系列、幼児教育系列）と学校教育科目（小学校教育系列、英語教育系列）という科目群から進路に応じて、免許・資格に必要な科目を履修する。
6. 特別支援教育科目においては、幼稚園教諭や小学校教諭の免許課程を基礎としながら、多様な障害を持つ子供への理解及び指導方法について理解を深める。知的障害、肢体不自由、病弱児の障害、重複障害といった障害の種類に対応して専門的に学びを深めたのち、教育現場での実践へと展開する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy/t.html>）

（概要）

教育学科に入学する学生には、次の資質をもっていることを期待する。

1. 知識・技能
教育に関わる学びの基礎となる知識と必要な情報を見出すことのできる文章読解力をもつこと。
2. 思考力・判断力・表現力
子どもの成長・発達に加えて子どもを取り巻く環境と社会に関心を持ち、子ども及び教育・保育に関わる問題について、専門的な知識・技能を求めて自ら学び考え、人に伝えようとする姿勢をもつこと。
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
教育・保育への熱意をもちながら、コミュニケーション能力を生かして人と協働し、積極的に社会に貢献しようとする志をもつこと。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。

ホーム>神戸松蔭について>公開情報

（公開情報 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html>）

「2. 教育上の基本組織に関すること」に以下の項目を掲載。

- 組織図（大学・大学院の学科・専攻の編成、教学組織と管理・事務組織など）
大学・大学院の学科・専攻の編成及び教学組織・事務組織の編成を系統図で表すとともに、定員、学長・副学長をはじめとする役職者氏名、各学科等の所属教員の氏名を掲載している。

→リンク先 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/outline/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	15人	4人	6人	0人	0人	25人
人間科学部	—	16人	15人	8人	0人	0人	39人
教育学部	—	15人	4人	4人	0人	0人	23人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			231人				231人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。 https://www.acoffice.jp/kswhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
副学長、教務部長、研究科長、学部長、センター長、各学科長をメンバーとするFD委員会を設置し以下のことに取り組んでいる。							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生による授業評価アンケート」の実施 2. 担当授業に関する「自己点検・評価表」の作成と学科ごとの内部質評価の実施 3. シラバスの記載項目・様式の検討と精査 4. FD WEEK（授業公開週間）の実施 5. 授業について「教育改善委員の意見を聞く会」の実施 6. 研修会の実施 7. 「授業についての意見箱」を常設、学生の意見を収集・改善取り組み 8. 教員表彰（「優秀教育賞」「先進教育賞」）の実施 							
その他詳細は、大学ホームページへ掲載し公表している。 https://www.shoin.ac.jp/academics/fd/educate.html							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	160人	205人	128%	860人	665人	77%	—人	3人
人間科学部	290人	342人	117%	1,360人	1,273人	93%	—人	4人
教育学部	120人	108人	90%	120人	108人	90%	—人	—人
合計	570人	655人	114%	2,340人	2,046人	87%	—人	7人
(備考) 教育学部は、2019年4月設置のため、在学生は1年次生のみ。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	154人 (100%)	5人 (3.2%)	129人 (83.8%)	20人 (130%)
人間科学部	273人 (100%)	8人 (2.9%)	246人 (90.1%)	19人 (7.0%)
合計	427人 (100%)	13人 (3.1%)	375人 (87.8%)	39人 (9.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先: University of Roehampton、京都教育大学大学院、 神戸松蔭女子学院大学大学院 主な就職先: 大和ハウス工業株式会社、株式会社ワコール、パナソニック株式会社(エコソリューションズ社)、大阪ガス株式会社、全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社ジャヴァコーポレーション、株式会社みずほフィナンシャルグループ、野村證券株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、第一生命保険株式会社、株式会社日本旅行、日本郵便株式会社、公立保育園(神戸市、豊中市、吹田市)、公立小学校(神戸市、大阪府) ※詳細は、大学ホームページに掲載している。 就職先 https://www.shoin.ac.jp/career/pdf/recruit_2018.pdf 進学先 https://www.shoin.ac.jp/career/course_job/shingaku.html				
(備考) 教育学部は、2019年4月設置のため、2018年度の卒業生はいない。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	167人 (100%)	148人 (88.6%)	7人 (4.0%)	11人 (5.4%)	1人 (0.6%)
人間科学部	312人 (100%)	270人 (86.5%)	21人 (6.7%)	19人 (6.7%)	2人 (0.6%)
合計	479人 (100%)	418人 (87.3%)	28人 (5.8%)	30人 (6.3%)	3人 (0.6%)
(備考) 2015年度入学、2019年3月卒業者数を記載。 その他は、学費未納による除籍者数。 教育学部は、2019年4月設置のため、2018年度の卒業生はいない。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>教育課程の実施・編成の方針に基づいて学科の教育課程に開設する授業科目については、全科目のシラバス（授業計画、授業方法及び内容、成績評価および単位認定の方法及び基準）を作成し、公開している。</p> <p>年間の授業スケジュール、学事日程を公表し、学生には新年度のガイダンスに先立って、前年度中の3月20日頃にシラバスを公開し、履修科目の決定・登録準備を促している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学に4年以上在学し、各学科の課程を修め、所定の単位を124単位以上修得した者について、教授会で卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>学位授与の方針はカリキュラムマップによりカリキュラムに反映し、学科の授業科目の到達目標設定の指標とするとともに、単位認定の基準となっている。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	英語学科	124単位	有	44単位
	日本語日本文化学科	124単位	有	44単位
	総合文芸学科	124単位	有	44単位
人間科学部	心理学科	124単位	有	44単位
	都市生活学科	124単位	有	44単位
	食物栄養学科	124単位	有	48単位
	ファッション・ハウジングデザイン学科	124単位	有	44単位
	生活学科都市生活専攻	124単位	有	44単位
	生活学科食物栄養専攻	124単位	有	48単位
	子ども発達学科	124単位	有	48単位
教育学部	教育学科	124単位	有	48単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。

ホーム>神戸松蔭について>公開情報

(公開情報 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html>)

「7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること」に以下の項目を掲載。

■施設紹介

キャンパスの建物配置図のほか、コンピュータ室・学生食堂等の主な施設を写真付きで紹介している。

→リンク先 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/campus/map/index.html>

■学生生活のサポート

学生生活を送るにあたっての基本情報（学生証や学生専用ポータルサイトの説明、住所変更ほか各種届出方法 等）のほか、学生の健康・安全に対する大学の体制、奨学金制度等を掲載している。

→リンク先 URL <https://www.shoin.ac.jp/life/index.html>

■クラブ課外活動

本学のクラブ・同好会のほか、学内で組織しているボランティアグループや学生自治会の活動を掲載し、参加希望の在学生に情報提供するとともに、受験生・保護者なども学外の方にも紹介している。

→リンク先 URL https://www.shoin.ac.jp/plus_s/campuslife/club/

■大学までのアクセス

大学周辺の主要都市（神戸、大阪など）からの公共交通機関でのアクセス方法や最寄駅からの経路図のほか、学生通学用バスの時刻表を掲載している。

→リンク先 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/campus/access/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名		授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	英語学科	1・2年次 2018年度 以降入学生	840,000円	200,000円	270,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費
		3・4年次 2017年度 以前入学生	810,000円	—円	270,000円	
	日本語 日本文化学科	1・2年次 2018年度 以降入学生	830,000円	200,000円	260,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費
		3・4年次 2017年度 以前入学生	800,000円	—円	260,000円	
	総合文芸学科	2年次 2018年度 入学生	830,000円	—円	260,000円	2019年4月募集停止
		3・4年次 2017年度 以前入学生	800,000円	—円	260,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費
人間 科学部	心理学科 ファッション ・ハウジング デザイン学科	1・2年次 2018年度 以降入学生	830,000円	200,000円	260,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費
		3・4年次 2017年度 以前入学生	800,000円	—円	260,000円	
	都市生活学科	1・2年次 2018年度 以降入学生	820,000円	200,000円	260,000円	2017年4月設置
		3年次 2017年度 入学生	800,000円	—円	260,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費
	食物栄養学科	1・2年次 2018年度 以降入学生	880,000円	200,000円	440,000円	2017年4月設置
		3年次 2017年度 入学生	860,000円	—円	440,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費、 実習費
	生活学科 都市生活専攻	4年次 2017年度 入学生	800,000円	—円	260,000円	2017年4月募集停止 その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費
	生活学科 食物栄養専攻	4年次 2017年度 入学生	860,000円	—円	440,000円	2017年4月募集停止 その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費、 実習費
子ども発達 学科	2年次 2018年度 入学生	850,000円	—円	320,000円	2019年4月募集停止	
	3・4年次 2017年度 以前入学生	820,000円	—円	320,000円	その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費、 実習費	
教育学部	教育学科	1年次 2019年度 入学生	850,000円	200,000円	320,000円	2019年4月設置 その他の欄の内訳： 施設設備費、教育充実費、 実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a.学生の修学に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業以外での外国語学習をサポートする取り組みとして、『イングリッシュアイランド』『外国語応援サロン』等を設置し、学修の支援を行っている。 → https://www.shoin.ac.jp/academics/action/support.html 参照 ・英語学科のカリキュラム内にある留学の支援として Semester 留学奨学金、1年留学奨学金の制度を設けている。 → https://www.shoin.ac.jp/admission/expenses/scholarship.html 参照 ・障がいや慢性疾患等がある学生に対しては、学生支援室を設置し、学生からの相談や支援に関する教職員からの相談に対応し、修学及び学生生活の支援を行っている。 → https://www.shoin.ac.jp/life/support2/student_support.html 参照
<p>b.進路選択に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>1・2年次において、キャリア教育センターが実施するキャリアデザインプログラムにより、学生自身が自分の将来を考え、キャリアデザイン力を養い、どのような夢を持ち、どのように生きていきたいかを学べるようにしている。ここで学んだ知識をもとに、自分の適性を把握したうえで「なりたい自分」を見つけ、それを実現するための力を身につけていく。</p> <p>3年次においては、キャリアサポートセンターが実施する「就職ガイダンス」、「ブラッシュアップセミナー」を受講することで、就職活動に必要な知識、実践力を身につけることができる。この他、履歴書やエントリーシートの添削、業界研究講座、面接試験対策講座、グループディスカッション対策講座、筆記試験対策講座などを実施しており、これらの様々な講座を受講し、学習を積み重ねることで、自信を持って就職活動が行うことができる力が養えるよう配慮して</p> <p>4年次では、多くの学生が採用試験に直面していく。そこで躓き悩む学生のため、国家資格を持ったキャリアカウンセラーが個別相談に応じ、適切なアドバイスが受けられるようにしている。</p> <p>大学院への進学については、自大学については各学科にて支援を行っており、他大学についてはキャリアサポートセンター資料室内にパンフレットを設置し、必要に応じて個別相談を行っている。</p>
<p>c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康等については、以下のような取り組みを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室：看護師2名が常駐 → https://www.shoin.ac.jp/life/support2/health.html 参照 ・学生相談室：臨床心理士2～3名が常駐 → https://www.shoin.ac.jp/life/support2/consultation.html 参照 ・ハラスメント相談窓口を設け、相談に対応できる体制を整えている。 → https://www.shoin.ac.jp/life/support2/teller.html 参照

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページに掲載し公表している。

ホーム>神戸松蔭について>公開情報

(公開情報 URL <https://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html>)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 の各号に定められた教育研究活動等の情報（項目番号 1.～9.）、学校教育法第 109 条に基づく自己点検・評価（項目番号 11）、事業報告書及び財務情報（項目番号 10）、設置届出書及び履行状況調査報告書（項目番号 12）を掲載し公表している。